

特別支援教育研究論文集

—令和3年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

知的障害特別支援学校における自己肯定感の向上を目指した実践
—就労につなげるために—

徳島県立池田支援学校

指導教諭 藤本 豊春

令和4年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

筆者は、平成 28 年度より本校高等部に所属している。その当時から本校高等部の生徒には特徴があった。「自分の行動に自信がもてない」「自分の言いたいことを表現することができない」「自分の置かれた状況を理解できていない」など自己理解ができておらず、自分に自信がもてない生徒が多かった。この目の前にいる生徒を「良くしたい」という一人の教員として、利用できる先行事例を集め、実践してきた。

平成 29 年度には、就労に必要な要素を可視化し、生徒は自己理解、保護者は子ども理解、教員は生徒の現状を理解しやすい「徳島県西部版就労支援チェックリスト」²⁾ (以下「就労支援チェックリスト」)、平成 30 年度には、地域で貢献する「地域貢献活動」、令和 2 年度には、活動記録を教員と主体的・対話的に振り返る「自分ノート (キャリア・パスポート)」、令和 3 年度は、生徒の自発的な行動に教員が感謝をカードに記入する「G J (グッドジョブ) カード」を実践した。これらの実践を通じて、いかに現状を改善し、自己肯定感を育む活動につながったかを報告する。

「就労支援チェックリスト」については、徳島県西部就労支援部会で作成された就労継続支援 B 型を利用するための指標を本校で使用した結果を報告する。

本校は、徳島県西部に位置し、地域交流を基盤とした教育活動を展開してきた。この交流の経験を発展させ、「地域貢献活動」を実施した。本稿では、「地域貢献活動」については、参加した生徒の意欲の変化を報告する。

新学習指導要領の特別活動においては、キャリア・パスポートの導入が推進されており、本校高等部でも自己肯定感や自己理解を進めるために「自分ノート」として導入した。自分ノートは、学校、家庭及び地域における学習や生活に見通しを立て、学んだことを教員と対話したことについての実践も報告する。

生徒の自発的で主体的な活動に対して、教員の感謝の気持ちを「G J (グッドジョブ) カード」に記入して生徒に手渡す活動の結果も報告する。

これらの活動を通じて、自己肯定感についての評価を実施した。先行研究として平成 20 年度から平成 24 年度まで東京都教職員研修センターで研究された「自尊感情や自己肯定感に関する研究」¹⁾を利用して自己肯定感の変化を数値化することで、本校が実践してきた「就労支援チェックリスト」「地域貢献活動」「自分ノート」「G J (グッドジョブ) カード」により、生徒がどのように変化し、自己肯定感が育まれたかを報告する。

最後に、就労に対して自己肯定感の向上がどのようにつながっていったのかを考察する。

キーワード：就労支援チェックリスト、地域貢献活動、自分ノート、G J (グッドジョブ) カード、自己肯定感の向上と就労する力